

美術科学習指導案

令和元年12月9日(月)第1校時
場所 絵画室

授業の視点

ピカソの「ゲルニカ」を鑑賞する場面で、「～している○○」のように作品に描かれているモチーフの様子に着目して書かせたり、作者の人物像や制作過程を伝えたりしたことは、作品に込められた作者の思いを感じ取るために有効であったか。

1. 題材名 「ゲルニカ」【鑑賞】(2年)

2. 考察

(1) 本題材に関わる生徒の実態

全体的に明るく、制作や発言も意欲的である。しかし、制作において上手く作りたいという意識が強くはたらしすぎて、自分の素直な思いを表現することが苦手な生徒がいる。また生徒が制作した作品の相互鑑賞は行っているが、一つの作品に対して全員が鑑賞活動を行うのは中学生になって初めてである。作者の心情や時代背景、人物像などをもとに鑑賞し、表現意図に迫るといった経験は乏しい。

(2) 教材観

①学習指導要領上の位置付け

B鑑賞 (1)

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

[共通事項] (1)

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

②教材の価値

パブロ・ピカソは、その生涯において絵画、素描、版画、陶芸と様々なジャンルの作品を制作してきた作家である。なかでも本題材でとりあげる「ゲルニカ」はスペイン内戦中に空爆を受けたゲルニカという街の悲劇を主題としており、ピカソの代表作の一つである。多角的にもの形を捉えたキュビズムと呼ばれる技法を取り入れたモチーフの形体は一つ一つが表情豊かであり、ゲルニカの悲劇を表現するために無彩色で画面を構成している。キュビズムによる豊かな形は生徒が作品に対する興味や関心を持ちやすく、多くの発見や考えにつながると考えた。またストレートな主題と主題に沿った色彩は、作品のもつ思いや考えを感じ取るのに好適な題材だと考え、本題材にパブロ・ピカソの「ゲルニカ」を選択した。

(3) 指導方針

ピカソの名前は知っていても、作風や人物像を知らない生徒も多い。そこで、授業のはじめにパワーポイントで作者の人物像や、過去の作品を紹介し、ピカソが心情の変化とともに作風を大きく変えていったことに気づかせたい。ゲルニカを鑑賞する前に前述の活動を設けることで考えや理解を深め、ピカソが作品に込めた思いを探る手掛かりとさせたい。鑑賞時には作品に描いてあるもの(モチーフ)をただ鑑賞するだけでなく、「～している○○」のように作品に描かれているものの様子や表情に着目させる。モチーフを一つ一つ細かく見ることで、ピカソの表現の工夫や作品に込められた思いを感じ取れるようにしたい。グループ活動では作品に対して、それぞれが感じた率直な意見や考えを共有することで、一人では気づかなかった視点や概念でも対象をとらえられるようにしたい。作品の見方や感じ方を広げ、自分の意見を自由に持って堂々と作品鑑賞させたい。また、生徒には本時の活動を通して、美術作品の鑑賞とは一つの作品に対して、みんなで決まった答えを見つけ出すことではないことを感じてほしい。作品に素直に向き合い、感性や想像力を働かせ、柔軟で豊かな鑑賞の能力を育てていきたい。

3. 校内研修とのかかわり

- ・グループで主題について話し合う活動を行い、気づいたことをもとにそれぞれの視点を共有することで、考えを深めながらすすんで学ぶことができるようにする。
- ・振り返りの時間を設定し、鑑賞活動から学んだことを、これからの制作で自己の表現に生かしていけるようにする。

4. 題材の目標

感性や想像力を働かせて、作品に込められた思いや表現の工夫、主題を主体的に感じ取り、自分の思いや考えをもって味わうことができる。

5. 評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
作者の思いや表現の工夫などに関心を持ち、主体的に作品のもつよさや表現を感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、自分の意見や考えをもって味わうことができる。

6. 本時の指導

(1) 本時のねらい

表現の工夫や作品に込められた作者の思い、主題を感じ取り、自分の思いや考えをもって味わうことができる。

(2) 準備 教師・PC、プロジェクター、ワークシート

生徒・教科書（下）、資料集、ファイル、筆記用具

(3) 展開 （1時間中の1時間目）

過程	学 習 活 動	時 間	指導上の留意点 (○) 支援の工夫 (・) 評価項目【 】
出 会 う	①提示されたいくつかの作品から、ピカソの作品を予想する。 ②ピカソについてのパワーポイントを見る。	13	○提示する作品はどれもピカソの作品にする。ピカソが年代別に様々な作風の作品を制作していたことを理解できるように簡単な説明を加える。 ○ピカソへの興味を高められるようにピカソの人物像、人生を作品とともに紹介、解説する。 「ゲルニカ」に込められた作者の「思い」を感じ取ろう。
確 か め る ・ 広 げ る ・ 深 め る	③作品の第一印象をワークシートに記入する。(個人) ④作品を細部まで鑑賞して「描かれているもの」から感じたことを、共有し合う。(個人→グループ) ⑤共有したことをもとに、「主題(何を表した絵なのか)」を考え発表する。(グループ) ⑥作品に込められた「思い」を感じ取り、ワークシートに鑑賞文を書く。(個人)	3 21 10	○自分なりの感じ方を大切にできるように最初の感想をワークシートに残しておく。 ○描かれているものの様子や表情に着目させ、「～している()」の文形で書かせる。 ○作品の細部まで注目できるように、プロジェクターで部分的に拡大して提示する。 ○グループごとに考えた主題を発表させたのち、「ゲルニカ」が無差別に爆撃された街を描いた悲しい作品であることを伝える。 【鑑賞の能力】 表現の工夫や作品に込められた作者の思い、主題を感じ取り、自分の思いや考えをもって味わうことができる。(ワークシート) ・作品に込められた「思い」に自分なりに迫れるように、資料集に掲載されている作品の大きさや制作過程などを参考にさせる。
振 り 返 る	⑦本時の学習を振り返り、ワークシートに自己評価と感想を記入する。	3	○本時の学習を振り返らせ、作品や作者について感じたことや学んだことなどをまとめさせる。